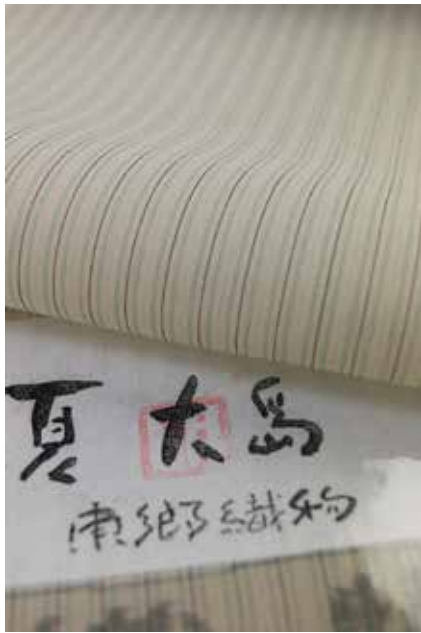


新入荷商品のご紹介



涼やかな着物姿は見るものを涼しくさせてくれます。着物ファンにとってはあこがれの夏大島紬です。

夏大島紬

129600円



夏の日差しから守ってくれる日傘は夏の必須アイテム。久留米紬のおしゃれな柄で夏のお出かけもうきうきします。

16200円

久留米紬 日傘

趣味の着物、草履・下駄、着物のお手入れ、着付けなどお気軽にご相談ください。

きもの新聞 2018年5月号

ごあいさつ



一気に暑くなり、これから着物も単衣や夏物の時期になります。先月のカフェでは『かき氷まだ?』とか『冷たいものが食べたい』という声が多かったように思います。お待たせいたしました。今月からかき氷を始めますよ!冷やしぜんざいもやりますよ。昨年より、1か月早いスタートですが、是非ともご賞味下さい!

6月の連休

6月5日(火) 6日(水)

特集 長板中型の魅力

毎年夏場になると花火大会や夏祭りなど日本の風物詩を楽しむ機会も多くなることと思います。そんなときに霽囲気を盛り上げてくれるのがゆかた。ゆかたには注染、型染など色々な技法がありますが、伝統的な技法に長板中型という技法があります。

長板中型の由来

長板中型は江戸時代から続く技法で、両面糊置きで藍の浸け染です。名前の由来は約6メートル(反物半分長さ)の縦(もみ)の板(長板)に生地を張り表に型付けをし、乾いたら裏からも型付けをします。この時表裏の柄がずれないようにピッタリ合わせて糊置きするには大変高度な技術が必要です。中型とは小紋より大きな柄のことを言い、江戸時代は中型イコール浴衣をさす言葉だったようです。



表の型付け

伝統的な洗紙を鋸彫りで彫ったものを使用し、裏から透けて見えるように色の付いた糊で糊付けしていきます。

裏の型付け

糊が乾いたら板から生地をはがして裏表をひっくり返して張り直します。裏から移った柄に合わせて、糊付けします。

藍染

両面糊付けが終わったら、伸子を張った反物を藍瓶に浸けていきます。引き上げるとは空気に触れさせました付けます。2~3日ほど浸けます。

仕上げ

藍染めが終わったら両面の糊を落としていきます。長板中型ならではの裏表のない染め上がりが魅力です。



紫織庵のゆかたは、「綿糸」を使用し、大正期から昭和初期に流行した柄を現代に復刻した友禅染ゆかたです。レトロでモダンな友禅染の紫織庵のゆかたに長じゆばんや足袋を着用して、「おとなの夏」を演出してみませんか?

紫織庵 ゆかた

28080円



お食事やお稽古の際には、大切な着物を守ってくれる和装洋エプロン。撥水加工してあるので汚れや水はねも安心です。

着物エプロン

1620円

twitter、facebook、アメブロやっています。

着物・和雑貨のかわちやフェイスブックページ

<http://www.facebook.com/kawachiya888>

もっと着物を楽しもう! かちゅうあんブログ

<http://ameblo.jp/kawachiya/>

日々、ブログを更新しています。着物のこと、日常のこと、音楽のことなどつづっています。チェックしてみてください。

呉服の河内屋

〒444-0521

愛知県西尾市吉良町上横須賀八王子62

<http://www.gofuku-kawachiya.co.jp>

メール info@gofuku-kawachiya.co.jp

tel 0563-35-0039 fax 0563-35-3539